

科目名		建築法規演習			
担当教員		澁谷 征延		実務授業の有無	
対象学科		建築士学科		対象学年	
必修・選択		必修		単位数	
				時間数	
				32時間	
授業概要、目的、授業の進め方		建築物の最低基準である建築基準法・建築基準法施行令を中心とした、基本的な法規の知識と設計の考え方を講義を通して学ぶ。 1. 建築施工において、法律上の規制、構造基準、申請手続き等の必要性を学ぶ。 2. 条件と規制に則した設備設計の進め方の基本を理解する。 3. 講義→小テスト→解答→解説を繰り返すことで重要性を理解・習得する。 4. 建築士試験の対策授業として演習、練習問題に取り組む。			
学習目標 (到達目標)		「2年次、建築法規」は、1年次の基礎知識を基に、建築士試験・実務に対応出来る建築法規の習得を目的とする。併い、基準法・施行令・告示等の関連を再度確認。 また、建築士2級の技術試験範囲にあたる内容のため、合格点に達する習熟度を目標とする。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		① 図説やさしい 建築法規 著者：今村仁美・田中美都 発行所：(株)学芸出版社。 ② 建築関係法令集 発行：(株)総合資格学院			
NO.		授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考	
1		建築士試験の範囲と出題傾向、法令集の見方		建築士試験に備え、出題傾向や範囲の説明、重要ポイントなどを説明。また、参考書や法令集の読み方、解き方などの方法を解説し、試験の取り組み方を意識づける。	
3		用語の定義 ①建築士試験に出題された内容		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学と、練習問題で確認 達成目標：項目①が理解・説明でき合格基準に到達できている。 準備学習：教科書①②の予習	
4		確認申請 ①確認申請が必要な建築物		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学と、練習問題で確認 達成目標：項目①が理解・説明でき合格基準に到達できている。 準備学習：教科書①②の予習	
5		面積・高さ・階数 ①建築面積・延べ面積・建物高さ・階数についての算定		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学と、練習問題で確認 達成目標：項目①が理解・説明でき合格基準に到達できている。 準備学習：教科書①②の予習	
6		採光に必要な開口部 (居室の採光、有効面積の算定) ①採光に必要な居室、有効な部分の面積の算定と計算ができる。		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学と、練習問題で確認 達成目標：項目①が理解・説明でき合格基準に到達できている。 準備学習：教科書①②の予習	
7		建築物の高さ規定 ①地域、道路、隣地における建築物の高さ制限規定		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学と、練習問題で確認 達成目標：項目①が理解・説明でき合格基準に到達できている。 準備学習：教科書①②の予習	
8		用途地域内の建築制限 ①用途地域の目的 ②建築物の制限		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②が理解・説明でき合格基準に到達できている。 準備学習：教科書①②の予習	
9		容積率・建ぺい率の規定 ①建築物の規模(大きさ)、建築面積の制限規定と計算		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②が理解・説明でき合格基準に到達できている。 準備学習：教科書①②の予習	
10		耐火建築物・準耐火建築物 ①耐火・準耐火建築物と指定条件		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②が理解・説明でき合格基準に到達できている。 準備学習：教科書①②の予習	
11		防火・準防火地域内の建築制限 ①防火地域(準防火地域)内に関する建築物の規定。		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学と、練習問題で確認 達成目標：項目①が理解・説明でき合格基準に到達できている。 準備学習：教科書①②の予習	
12		防火区画等 ①建物の耐火性能、用途・規模等に必要な防火区画・種類等		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学と、練習問題で確認 達成目標：項目①が理解・説明でき合格基準に到達できている。 準備学習：教科書①②の予習	
13		避難施設等 ①廊下・階段等の必要な幅・種類・構造、 ②排煙設備・非常用の照明・出入口の設置基準、構造		方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②が理解・説明でき合格基準に到達できている。 準備学習：教科書①②の予習	
		上記についての理解度のチェック、練習問題で確認。 ※時間あれば、範囲外も行います。		上記についての理解度のチェック、練習問題で確認。 ※時間あれば、範囲外も行います。	
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
期末試験・小テスト・平常点出席率評価点の合計とする。 定期試験70% 小テスト20%、平常点10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		2級建築士合格へ向け、今までに学習した内容の復習と応用をテスト形式で実施します。法令集の見方を覚え、1項目づつ確実に理解させる。法規の基本を理解した上で、建築に関する実務への見聞を広げる。また定期的小テストを行い習得状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い回答については、十分な解説を行う			
実務経験教員の経歴		建築設計、施工管理歴、13年			